

# ご挨拶



山元町長  
齋藤 俊夫

## 復興の歩み ～笑顔がキラリと輝くまちへ～

ここ山元町は、東に牡鹿半島まで望める雄大な太平洋と、青々と茂る松林、美しい砂浜、そして、平野部から阿武隈山地のふもとまで広がる豊かな田園風景の中で、町民みんなが顔見知りという、まさに「日本の原風景」ともいえる営み、街並みがありました。

平成23年3月11日14時46分、のちに「東日本大震災」と名付けられた宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震と、その後に押し寄せた巨大津波は、わが町一帯に容赦なく襲いかかり、公共施設やライフラインのみならず、私たちのかけがえのない多くの宝を、一瞬にして奪い去ってしまいました。

誰しもが経験のない未曾有の災害に、多くの方々が戸惑い、そして、一人ひとりが、「命の尊さ」に改めて向き合うこととなりました。発災直後から、関係機関をはじめ、全国、さらには国境を越えて、実に多くの温かなご支援を頂戴いたしましたこと、この場をお借りし、心より深く感謝を申し上げます。

震災から7年が経過しましたが、町ではこの間、1日も早い復旧を果たすべく、住まいの再建などに取り組んでまいりました。その一方で、町民の安全・安心を確保すること、そして、震災の教訓を踏まえた後世に誇れるまちづくりに向け、単なる復旧に留まらない「創造的な復興」を目指し、多種多様な大規模事業に果敢に取り組んでまいりました。

こうして、本冊子発行に至ることができましたのも、町民をはじめ多くの皆様のご理解とご協力、全国の皆様のご支援とお知恵を頂戴できたからであり、本冊子は、全国の皆様と心をひとつにして、ようやくここまで復興への歩みを進めることができたという「証」となるものと存じます。

本町の復興は道半ばという部分もあります。今後とも、町民に寄り沿い、町を訪れる全ての方々に、「小さくともキラリと輝く、復興」を、実感していただけるよう、各種事業に取り組んでまいります。

図らずも、全国各地で大規模災害が起り得る状況にあります。この一冊を手にとられた皆様にとりましても、東日本大震災からの本町の復興の歩みを実感していただくとともに、震災の教訓を伝承するための一助になれば幸いに存じます。

## ■ 目 次

ご挨拶

被災から復旧・復興6年間の歩み ..... 2

震災復興計画 ..... 6

**1** 震災直後の生活を支える ..... 8

**2** 生活の再建に向けて ..... 11

**3** コンパクトシティの実現 ..... 14

**4** 新しいまちをつくる ..... 18

**5** 災害に強いまちづくり ..... 21

**6** 産業の復旧・復興 ..... 23

**7** 山元町で暮らす ..... 27



# 被災から復旧・復興6年間の歩み

## 地震の概要

発生日時 平成23年3月11日（金）  
14時46分頃  
震源 三陸沖(牡鹿半島の東南東130km付近)  
規模 マグニチュード9.0  
震度 山元町震度6強

## 津波の概要

津波襲来 3月11日15時50分頃  
最大波 12.2m（磯浜海水浴場付近）  
浸水範囲 24km<sup>2</sup>（総面積の37.2%）  
海岸沿い6行政区の全域および丘通り4行政区の一部が津波により水没  
推定浸水域にかかる人口 8,990人（当時人口の53.8%）  
推定浸水域にかかる世帯数 2,913世帯（当時世帯数の52.4%）

## 被災状況

### [人的被害]

- 死亡者数：637人（遺体未発見の死亡届17人および震災関連死20人含む）  
当時人口（16,695人）の約4%
- 避難者数：5,826人
- 避難所数：19カ所

### [家屋被害]

- 住宅4,440棟に被害  
被害の内訳  
全壊2,217棟（うち流出1,013棟）（50%）  
大規模半壊534棟（12%）  
半壊551棟（12.4%）  
一部損壊1,138棟（25.6%）

### [産業関係への被害]

- 農地面積の約59%（1,416ha）に浸水
- 水田の69%、畑地の45%が冠水
- いちご農家被災件数 125/129戸



震度6強を示す震度計



津波被災直後の旧JR山下駅

## 震災からの出来事

### 平成23年

3月 11日 東日本大震災発災  
12日 救出・救助活動、がれき撤去作業開始  
災害ボランティアセンター設置  
14日 電気の復旧開始  
18日 上水道の復旧開始  
21日 臨時災害FMラジオ放送「りんごラジオ」開局  
27日 リ災証明書の交付申請受付開始  
4月 1日 仮設住宅入居申込受付開始  
2日 町民バス「ぐるりん号」運行再開  
12日 JR常磐線（仙台－亶理間）運転再開  
相馬－亶理間JR代行バス運行開始  
20日 各種被災者支援制度の申請受付開始  
25～26日 町内小中学校新年度開始

30日 仮設住宅入居開始  
5月 31日 「思い出の品」展示・引渡開始  
6月 4日 皇太子ご夫妻ご訪問  
19日 第1回震災復興会議  
22日 復興まちづくりに関する意向調査開始  
7月 1日 避難指示解除開始  
10日 第2回震災復興会議  
19日 役場仮庁舎完成、役場機能移転  
24日 第3回震災復興会議  
8月 11日 町主催震災5ヵ月合同慰霊祭  
16日 町内一次避難所閉鎖  
24日 今後の住まい等に関する意向調査開始  
28日 第4回震災復興会議  
9月 9日 農産物直売所「夢いちごの郷」営業再開

10月 1日 山元町地域サポートセンター設置  
5日 第5回震災復興会議  
19日 磯浜漁港でサケの定置網漁再開  
23日 消防団主催合同慰霊祭  
11月 11日 災害危険区域に関する条例施行  
13日 第6回震災復興会議  
23日 復興イベント「心をひとつに！ふれあい産業祭」  
12月 1日 法テラス山元開所  
7日 第7回震災復興会議  
23日 合戦原地区仮設商工施設完成  
26日 「山元町震災復興計画」策定

### 平成24年

3月 5日 JR東日本常磐線移設ルート発表



### 災害ボランティア

全国から延べ39,019人（平成29年3月時点）のボランティアが訪れ、震災後の町を支えていただきました。



### 自衛隊による支援

救助・捜索活動、炊き出し、診療所や仮設入浴施設の開設など、多岐にわたる支援を受けました。



### 避難所の暮らし（山下第一小学校）

町内の避難所は平成23年8月16日に閉鎖されました。ピークは災害発生から4日目時点で避難所数19カ所、避難人数5,826人でした。



### 皇太子ご夫妻ご訪問

避難者一人ひとりに向かい合い、やさしくお声をかけていただきました。



### りんごラジオ

震災直後から平成29年3月31日まで、生の情報を伝え続けました。



### 住民説明会の様子

町の復興計画に関する説明に対し、熱心に耳を傾けていました。

- 11日 東日本大震災 山元町追悼式
  - 27日 山元海岸堤防復旧工事着工
  - 6月 5日 すきですやまもと“2012”福幸花火
  - 29日 防災リサイクルセンター新規立地操業
  - 7月28~29日 八重垣神社夏祭り復活
  - 8月 28日 大規模施設園芸技術実証研究施設開所
  - 11月 19日 山下第二小学校校舎お別れ会
- 平成25年
- 1月 26日 住民組織「新山下駅周辺地区まちづくり協議会」「新坂元まちづくり協議会」発足
  - 2月 1日 中浜小学校の廃止決定
  - 2日 「宮城病院周辺地区まちづくり協議会」発足
  - 6日 復興公営住宅入居者募集受付開始

- 3月 11日 東日本大震災2周年 山元町追悼式
  - 16日 J R 常磐線（巨理－浜吉田間）運転再開
  - 31日 中浜小学校閉校
  - 4月 1日 復興公営住宅入居開始
  - 7月 31日 新山下駅周辺地区市街地整備工事着工
  - 8月 7日 新坂元駅周辺地区市街地整備工事着工
  - 30日 いちごの大型鉄骨ハウス完成
  - 31日 震災後初の総合防災訓練実施
  - 9月 20日 磯浜漁港施設災害復旧工事着工
  - 11月 15日 ハウス完成後初のいちご出荷
- 平成26年
- 3月 11日 東日本大震災3周年 山元町追悼式
  - 第1回震災伝承検討委員会

- 13日 坂元地区の県道角田山元線バイパス開通
  - 16日 坂元小学校体育館落成
  - 5月 15日 J R 常磐線移転復旧工事着工
  - 27日 第2回震災伝承検討委員会
  - 旧中浜小学校保存検討決定
  - 6月 30日 新市街地3地区の宅地分譲申込受付開始
  - 7月 5日 牛橋公園復旧工事完了
  - 10月 20日 磯浜漁港で本格的な漁再開
  - 12月 6日 常磐自動車道山元IC～浪江IC間開通
- 平成27年
- 1月 14日 東日本大震災慰霊碑建立検討委員会発足
  - 15日 坂元川・戸花川河川災害復旧工事着工
  - 2月 2日 新市街地3地区の宅地分譲引渡開始





東日本大震災山元町追悼式



復興公営住宅 入居開始

県内最速で復興公営住宅の入居を迎えました。



分譲宅地 引渡式

震災から3年、新しくなったまちで再スタートを切りました。



東日本大震災慰霊碑「大地の塔」

旧J R山下駅前跡地に建立されました。震災の記憶を深く心に刻み、犠牲者の冥福を祈ります。



旧中浜小学校

県南地域に残る唯一の震災遺構。児童・教師ら90名の命を津波から守ってくれました。

- 3月 11日 東日本大震災4周年 山元町追悼式
- 4月 1日 防災情報発信体制の一環として「キラリ☆やまとメール配信サービス」開始
- 24日 磯浜漁港海岸堤防災害復旧代工事完了
- 7月 17日 山下第二小学校災害復旧工事中
- 8月 20日 宮城病院周辺地区市街地工事中
- 23日 まちの名称選定委員会
- 9月 18日 新山下駅周辺地区市街地の名称「つばめの杜」に決定
- 25日 山元町ふるさと寄付金(ふるさと納税)開始
- 12月 1日 新工場立地(ステンレス加工業)

平成28年

- 1月 30日 常磐自動車道山元南スマートIC工事中
- 2月 17日 新市街地の商業施設第1号オープン

- 3月 7日 花釜区交流センター落成
- 11日 東日本大震災5周年 山元町追悼式
- 26日 つばめの杜大橋開通、つばめの杜中央公園供用開始
- 7月 9日 地域交流センター新築工事中
- 24日 子育て拠点施設開所
- 8月 25日 山下第二小学校落成
- 9月 10日 秋篠宮ご夫妻ご訪問
- 10月 3日 園芸作物出荷調整貯蔵施設落成
- 23日 新市街地まちびらき
- 25日 新工場増設(ダイカスト品製造業)
- 27日 J R山下駅前に大規模商業施設オープン
- 12月 10日 J R常磐線相馬～浜吉田駅間運転再開
- 28日 町内沿岸部3ヵ所の防災公園完成

平成29年

- 1月 13日 農地整備事業「山元東部地区」戸花工区水田の引渡開始
- 3月 1日 防災行政無線戸別受信機の設定開始
- 11日 東日本大震災6周年 山元町追悼式 慰霊碑除幕式
- 31日 臨時災害FMラジオ放送「りんごラジオ」閉局
- 4月 1日 常磐自動車道山元南スマートIC完成 デマンド型乗合タクシー運行開始
- 5月 11日 復興創生トマト初出荷
- 7月 14日 新工場増設(鉄骨プレハブ製造業)
- 8月 1日 山元町防災拠点・坂元地域交流センターオープン
- 3日 化粧品製造工場復興操業
- 10月 1日 山元町防災拠点・山下地域交流センターオープン
- 5日 役場新庁舎の安全祈願祭挙行

## 復興事業の進捗

山元町の主な復興事業の進捗状況は以下のとおりです（平成29年12月末時点）。

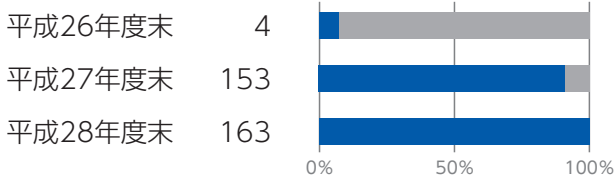
全体の整備計画 741（区画・戸）

- 防災集団移転促進事業 163
- 津波復興拠点整備事業 88
- 災害公営住宅整備事業 490

### 防災集団移転促進事業の進捗状況

整備地区 3地区

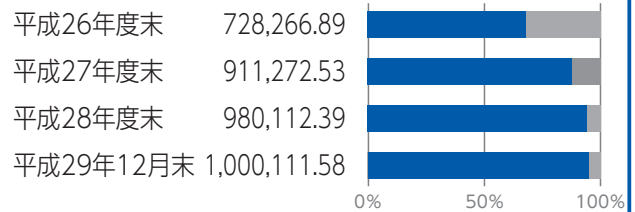
対象区画 163区画



### 移転元地買収の進捗状況

買収予定面積 1,051,138㎡

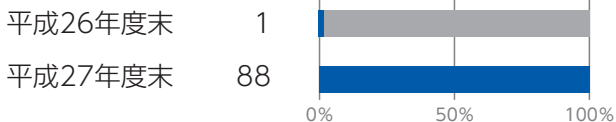
買収面積



### 津波復興拠点整備事業の進捗状況

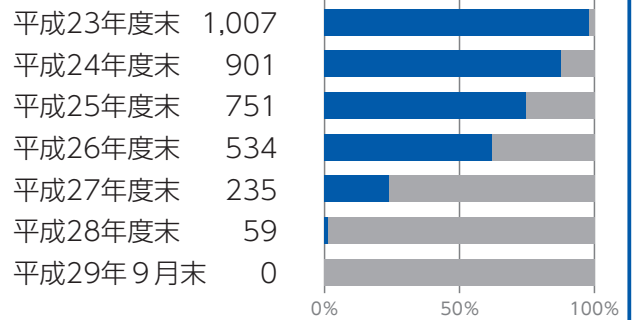
整備地区 2地区

対象区画 88区画



### 応急仮設住宅の入居世帯数

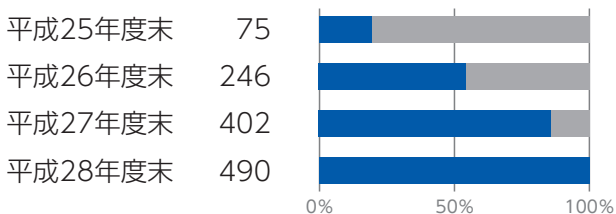
全8カ所 1,030戸



### 災害公営住宅整備事業の進捗状況

整備地区 3地区

対象戸数 490戸



### 自力再建の状況

被災世帯数(※) 2,672世帯

再建済世帯数 2,579世帯

町外・県外に再建 913

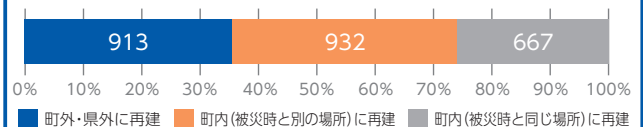
町内（被災時と別の地区）に再建 932

町内（被災時と同じ地区）に再建 667

死亡 67

※東日本大震災で被災し、国の生活再建支援金を申請した世帯数

再建済世帯の再建地別割合



# 震災復興計画

## 復興の将来像

### キラリやまもと！みんなの希望と笑顔が輝くまち

基本理念	1	災害に強く、安全・安心に暮らせるまちづくり
	2	だれもが住みたくくなるようなまちづくり
	3	つながりを大切にするまちづくり

## 震災復興計画



震災による甚大な被害の復旧・復興には、町が総力を挙げて長期間にわたって取り組んでいかなければなりません。一方で、町が震災前から抱えていた課題「人口の減少」「少子高齢化」「にぎわいの創出」などへの対応も急務です。

そこで、『山元町震災復興計画』は、震災からの復旧・復興を推進する計画であるとともに、将来の町のあり方を見据え、町が抱える多くの課題に対応したまちづくりの基本構想『第5次山元町総合計画』としても位置付けています。

計画期間：平成23年度から平成30年度までの8年間

## 震災前と現在、人口・世帯数の比較

	平成23年2月末	平成29年12月末※	増 減
男（人）	8,110	6,163	△1,947
女（人）	8,585	6,252	△2,333
合 計（人）	16,695	12,415	△4,280
世帯数（世帯）	5,561	4,687	△874

※外国人住民を含む

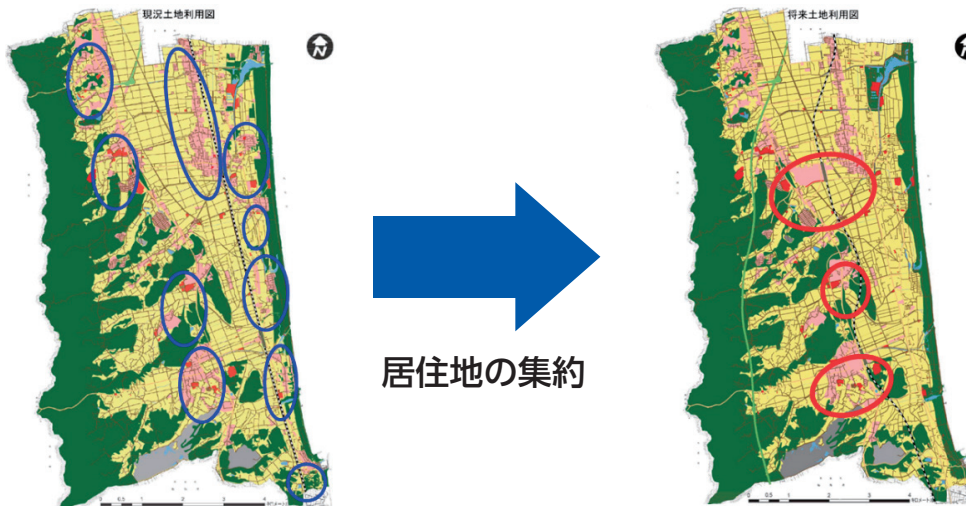
山元町の人口は、震災などの影響により約4,000人（平成23年2月末人口の約25%）が流出し、近年は横ばいの状態が続いています。

全国的に人口減少・少子高齢化が進行するなか、住みよいまちづくりや施策の展開により、人口の維持・回復を目指しています。



## コンパクトなまちづくりを目指して

従来の分散されていた状態から新駅を中心とした新市街地へ集落を集約します。これにより、震災による人口減少や急増する高齢者の孤立化を抑制し、コミュニティ活動の活性化を図ります。また、生活利便施設の立地誘致と優良宅地の供給により、町外からの移住・定住を促進します。

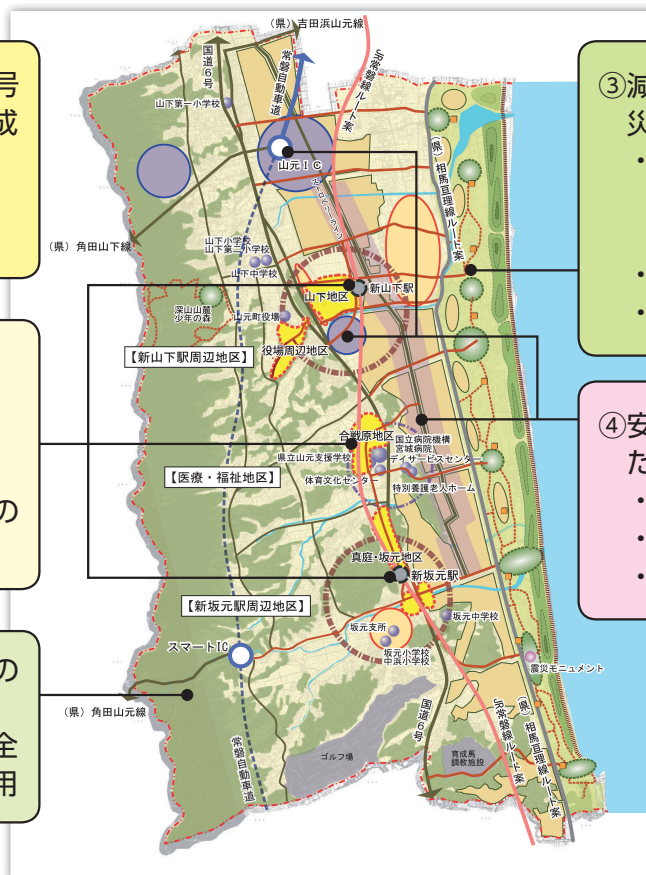


## 土地利用計画

- ① 新ＪＲ常磐線と国道６号を軸とした市街地の形成
- ・ つばめの杜地区
  - ・ 新坂元駅周辺地区
  - ・ 宮城病院周辺地区

- ② 安心して暮らせる住宅・宅地の供給
- ・ 安全な住まいの確保
  - ・ 復興公営住宅の整備
  - ・ 津波防災区域内住宅の移転宅地の整備

- ⑤ 自然を活かした山地の活用
- ・ 豊かな自然環境の保全
  - ・ 交流拠点としての活用



- ③ 減災を視野に入れた防災緑地ゾーンの整備
- ・ 多重防御（堤防、防災緑地、嵩上げ道路）による津波対策
  - ・ 交流ゾーンの整備
  - ・ 既存財産の有効活用

- ④ 安全性・生産性が向上した産業用地の整備
- ・ 産業用地の集約
  - ・ いちご畑の集約
  - ・ 企業誘致と雇用の確保